

2020

朝日の社会福祉

令和2年度事業報告

2020年4月1日-2021年3月31日



THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION



朝日新聞厚生文化事業団

目 次

2020 年度の事業について	2
社会福祉事業.....	3
公益事業	41
朝日福祉ガイド 本・DVD のご案内	48
主な後援・協賛・協力事業一覧	49
収支／寄付報告	51
中期計画 2020～新しい福祉のカタチをめざして～	52
朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ	56
名簿（理事・監事・評議員、職員）.....	58

2020 年度の事業について

2020 年。この年は、だれにとっても忘れ難い一年となりそうです。新型コロナウイルスの感染が広がり、人の動きや経済活動が滞り、福祉の現場も大きな影響を被りました。朝日新聞厚生文化事業団は 20 年度、「コロナ禍にあっても、実施できる事業は安全を考慮して可能な限り実現させる」との方針を掲げ、事業を進めてまいりました。集客を前提とするチャリティー事業などは中止・延期をやむなくされましたが、助成事業はほぼ予定通りに行い、そのほかも多くをオンライン開催に転じることで実現させてまいりました。

この間、支援団体などのみなさまから多くのご協力をいただきましたことを、改めまして心より御礼申し上げます。

コロナ関連では二つの緊急事業を児童福祉分野で行いました。20 年春、感染拡大で給食がなくなって食費がかさむ「ひとり親家庭」を支えるため、それら多くの家庭に緊急でお米を届けました。また、アルバイトが減るなどした社会的養護出身の学生を支えるために、一人一律 5 万円の「緊急学生応援金」を全国の約 1400 人に給付いたしました。

そのほか、精神疾患のある方の地域生活を支える事業、認知症関連事業など多くをオンラインで実施。「朝日夏季保育大学」を衣替えした「朝日オンライン保育ラボ」などでは、より多様な方に参加いただけるインターネットの新たな可能性を再認識するなどいたしました。

また、これまで実施してきた事業につきましても、厳しい経済環境にある若者への助成を拡充したほか、九州地方を中心とした「7 月豪雨」による被災者支援など、復興支援事業に引き続き力をいれるなどしてまいりました。

お互いに支え合い、だれもが安心して暮らせる社会を実現したい——。事業団はこれからも、コロナ収束後の社会も見据えながら、地域福祉の向上につながる「地域づくり」、福祉を支える人材を育む「人づくり」、「支援の輪の拡大」という三つの軸にそって、思い切り取り組んでいく所存です。

今後とも事業団の活動への温かいご支援、ご協力をなにとぞよろしくお願い申し上げます。

2021 年春
社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

社会福祉事業

■被災地支援

7月豪雨救援活動助成金	5
朝日のあたる家	6
陸前高田復興支援「たまご村」への助成支援	8
東松島グリーン助成	9
アートでつなぐ子どもの絆プロジェクト 2020 への助成	10
東日本大震災へのご寄付	11

■児童福祉事業

新型コロナウイルス緊急学生応援金	12
まなび応援金	14
児童養護施設・里親家庭等進学応援金	16
児童養護施設・里親家庭等進学応援金ピアミーティング	17
進学応援セミナー	18
朝日夏季保育大学特別メッセージ動画配信	19
朝日オンライン保育ラボ	20
【新型コロナ緊急支援】ひとり親家庭・子ども支援便	21
こども食堂ネットワーク助成	22
東淀川ドロップインランチ	23
ひとり親家庭への親子で楽しむオンライン体験ツアー	24

■高齢者福祉事業

フォーラム「認知症カフェからの出発 Next」	25
オンライン交流会「認知症カフェからの出発」	26
認知症フレンドリーキッズ授業	27
認知症マフワークショップ	28
ゆうゆうビジット	29
週末特別教室「オンラインセミナー ウィズ・コロナ ウイルスに負けない生活スタイル」	30

■障害者福祉事業

オンライン講演会「精神障害のある人へのアウトリーチサービスがあたりまえになる社会」	31
ワークショップ「みんなで考える 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」	33
精神疾患をもつ親に育てられた子どもの立場の「つどい」	35
第37回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト	36
障害者就労支援事業	38
聖明・朝日盲大学生奨学金	39
第39回肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展	40

2020 年度は、以下の社会福祉事業が中止となりました。

- ・被災地ビジット（東京）
- ・朝日夏季保育大学（東京）
- ・みんなでパラリンピック（広島、大阪）

事業の名称	7月豪雨救援活動助成金
事業種別1	社会福祉事業
事業種別2	高齢者福祉事業
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2020年度
事業の概要	九州地方を中心とした「令和2年7月豪雨」の被災地で支援を行っている計11団体に、活動資金を助成しました。9月までに、熊本地震（2016年）や西日本豪雨（18年）などで事業団から助成を受け活動を行った実績のある7団体に、緊急の活動に必要な資金として計540万1800円。その後、継続した支援活動が必要な地域での活動の資金として、4団体に計654万7400円を送りました。
時期	7月～21年1月
助成の目的	被災地の復旧、生活支援活動を資金面で支える。
助成団体	レスキューアシスト熊本（熊本市、70万円） 熊本学園大学ボランティアセンター（同、100万円） フレンドシップ（同、100万円） 熊本シニアネット（嘉島町、17万6800円） ハンズハンズ（同、80万円） ロハス南阿蘇たすけあい（南阿蘇村、100万円） Place3（同、72万5000円） 人吉市災害ボランティアセンター（200万円） 八代市復興ボランティアセンター（200万円） 荒尾市社会福祉協議会（100万円） くまもと災害ボランティア団体ネットワーク KVOAD（熊本市、154万7400円）
助成した人数	
助成総額	1194万9200円
その他	



助成団体による救援活動の様子。

左からレスキューアシスト熊本、人吉市災害ボランティアセンター、八代市復興ボランティアセンター

事業名	朝日のあたる家
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	高齢者福祉事業
主催	朝日新聞厚生文化事業団、NPO 法人福祉フォーラム・東北
後援等	
事業開始年度	2012 年度
事業の概要	朝日のあたる家は、当事業団の震災救援事業に寄せられた寄付金により、13 年 2 月に誰でも気軽に立ち寄り、情報交換をしたり地域に根ざしたイベントを開催する場として岩手県陸前高田市米崎町に開設され、これまで N P O 法人「福祉フォーラム・東北」の方々と共に歩みを進めて参りました。今年で、みなさまのご支援に支えられ 8 周年を迎えることができました。
日時	
場所	岩手県陸前高田市
事業の目的	東日本大震災被災地復興支援事業として実施しています。陸前高田市の住民の方々はもちろんですが、地域の関係機関の方々とともにさらに連携を深めながら、朝日のあたる家が地域の資源として根付き、豊かな社会作りに寄与できるような取り組みを進めています。
事業の内容	朝日のあたる家では、地域の方々の交流の場として、来られた方が心地よく過ごせるような雰囲気づくりを目指しながら、地域の方々と一緒に数々のプログラムを開催しています。 ・「アップルカフェ（認知症カフェ）」 認知症の方やそのご家族、地域の方に自由にご参加いただき、認知症の方が住み慣れた地域での暮らしを継続できるようなつどいの場 ・「みんなでごはん」 食べる・作る・会う・参加するすべての楽しみを味わいながら元気を持続していくことを願い開催。 ・「いきいき百歳体操」 身体機能の維持だけでなく、心の豊かさを作り上げる。 ・「生き活き朝日」（陸前高田市通所型サービス B 事業） 17 年度より実施。百歳体操や交流活動などを開催。 ・そのほかにも、手芸や囲碁・将棋などのサロンや、障がいのある方々がコーヒーを淹れておもてなしする「ほっとカフェ」、館長による「健康相談」なども開催。
参加者数	2020 年度の利用者のべ 4159 人
参加費用	原則無料（一部イベントは有料）



朝日のあたる家全景



囲碁サロン



認知症予防体操



青空カフェ



「みんなでごはん」で出されたお弁当

事業の名称	陸前高田復興支援「たまご村」への助成支援
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	高齢者福祉事業
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2020 年度
事業の概要	東日本大震災関連支援事業として、岩手県陸前高田市内で活動をしている一般社団法人「トナリノ」が20年度より新規開設した「たまご村プロジェクト（ヤドカリ）」への助成です。 「たまご村」は若者や子育て世代、高齢者、障害者など年代や属性を超えて集い、交流を育む場所であり、“食べる”“暮らす”“働く”の3つのテーマで構成されます。弁当提供、コワーキング、シェアオフィス、デイサービス、健康麻雀、介護・看護事業所等々、様々な団体や取り組みが同じ場所で展開されることで、トータル的な地域支援を目指しています。 事業団は、活動に必要な什器や備品などの購入費用として100万円を助成しました。
時期	9月
助成の目的	「たまご村プロジェクト（ヤドカリ）」の活動に必要なための什器や備品の購入費用にあてる。
助成団体	一般社団法人トナリノ（岩手県陸前高田市）
助成した人数	
助成総額	100万円
その他	



ミーティング等で使用するモニター



地域の皆さんと使用するミシン

事業の名称	東松島グリーフ助成
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	児童福祉事業
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2011 年度
事業の概要	東日本大震災以降継続して行っている、津波と地震を経験した子どもや、災害で身近な人をなくした子どもたちを対象にした「心のケア事業」です。2018 年度から地元の活動団体を設立し、事業団はこれまで、活動の主体となって運営をしてきました。
時期	2021 年 2 月（送金）
助成の目的	今回の助成は、感染症対策の備品購入並びに今後 4 年間の活動費用として実施されました。震災から 10 年がたち、地元団体も設立され、地域のニーズに合わせてグリーフサポート活動の変容も求められています。 2018 年から地元の人たちで運営できる体制が確立され、より地域密着型のサポートが進められています。今後さらに震災以外で経験した離別や死別にも目を向け、多くの方々の心のサポートを行う体制づくりを進めます。東松島子どもグリーフサポートでは今後も引き続き子どもたちの安心、安全な居場所作りに向けて取り組んでいきます。
助成団体	東松島子どもグリーフサポート（宮城県石巻市）
助成した人数	
助成総額	100 万円（内、備品代 20 万円）
その他	



助成金で購入した備品

事業の名称	アートでつなぐ子どもの絆プロジェクト 2020 への助成
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	児童福祉事業
主催	アートでつなぐ子どもの絆プロジェクト 2020 推進委員会
後援等	
事業開始年度	2020 年度
事業の概要	事業団は例年被災地へアーティストが訪問する復興ビジットを実施していますが、20 年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため中止しています。そのため、被災地の現場の NPO である「アートでつなぐ子どもの絆プロジェクト 2020 推進委員会」による催しへ助成を行い、復興支援につなげます。この催しは、福島県いわき市内の小学校で、土を素材に復興をイメージしたタイルを作成するものです。共同作業による人間関係の構築や、震災の記憶を後世に継承していくことを目的としています。
時期	9 月～12 月（制作）、9 月（送金）
助成の目的	東日本大震災の被災地である福島県いわき市内の小学校でのイベントに資金面で支援を行うことで、復興につなげること。
助成団体	アートでつなぐ子どもの絆プロジェクト 2020 推進委員会
助成した人数	
助成総額	52 万 8750 円
その他	



制作の様子



完成品

東日本大震災へのご寄付、20年度は326万円

事業団の東日本大震災救援事業へ20年度に寄せられたご寄付は、138件、326万1002円に上りました。

東日本大震災救援募金（震災直後から12年3月末まで実施）も含めたご寄付の累計は、20年3月末で約9万件、総額37億5033万140円となりました。

【年度別】

10年度 17億1703万9856円▽11年度 17億9627万3050円▽12年度 1億1362万4052円▽13年度 4572万1384円▽14年度 2359万9869円▽15年度 1847万7091円▽16年度 955万8676円▽17年度 767万8278円▽18年度 774万7348円▽19年度 530万5268円

事業の名称	まなび応援金
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	児童福祉事業
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	社会福祉法人カリヨン子どもセンター（協力）
事業開始年度	2020 年度
事業の概要	自立援助ホームや子どもシェルターで暮らす 10 代、20 代の若者に、高校就学や資格取得にかかる費用を支援する本事業では、2020 年度前期受付分として 135 人に総額 1467 万 3754 円をおくりました。
時期	2020 年 4 月から 9 月までの高校等就学、資格取得の支援（後期分は、2021 年度予算計上）
助成の目的	自立援助ホームや子どもシェルターで暮らす子どもの幸せのために、就学・就労・自立に寄与することが目的。
助成団体	
助成した人数	就学金：126 人に給付 ・高校（全日制・定時制・通信制）などで学ぶための本人の努力を後押しすることが趣旨。 ・4～9 月を前期、10～3 月を後期とする。 ・6ヶ月ごとに 12 万円を給付。返済不要。 ・現在学校に在籍しているか、申し込み年の 3 月末に学校を卒業した人。 ・国籍は問わない。 資格取得金：9 人に給付 ・自立に向けて各種資格を取得する努力を後押しするために費用の実費を給付する。 ・資格取得にむけて必要な費用（授業料・教科書代・備品・交通費など）の実費を以下の基準にて給付。 （ア）資格を取得できた場合は、かかった費用の全額（上限 15 万円）を給付。 （イ）資格を取得できなかった場合は費用の 7 割（上限 10 万円）を給付。 ・対象とする資格は公的機関が認定するもの、または運営委員会が制度の趣旨に鑑みて認めたもの。 例：高校卒業程度認定試験、運転免許、英語検定など。
助成総額	就学金：計 1374 万円 資格取得金：計 93 万 3754 円
その他	ご寄付：A-port クラウドファンディング 216 万 9000 円 101 件、直接寄付 223 万円 26 件

事業の名称	児童養護施設・里親家庭等進学応援金
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	児童福祉事業
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	原田積善会（協賛）
事業開始年度	2008 年
事業の概要	児童養護施設、里親家庭、自立援助ホームで暮らし、大学などで学ぶ方に、入学金 10 万円と卒業まで毎年 30 万円の返済不要の奨学金を贈る。また、応援生とともにピア活動を実施（ピアミーティングについては、別途報告）。
時期	5～8 月（募集）、9 月（内定）
助成の目的	
助成団体	社会的養護で育った人の自立支援。
助成した人数	応援生総数 104 人（在学学生 87 人。卒業生を含む。2021 入学生 17 人）
助成総額	応援金給付総額 3,800 万円（年度をまたいで送金した分も含む）
その他	本事業は、朝日新聞厚生文化事業団に寄せられたご寄付と山岡こども応援資金などによって行っています。 ご寄付：A-port クラウドファンディング 346 万 9000 円 215 件、直接寄付 1441 万 3270 円 76 件

ココロにあんしん
2020年度
児童養護施設・里親家庭等
進学応援金

児童養護施設や里親家庭、自立援助ホームなどの社会的養護で暮らし、将来の目標に向けて進学を希望する方に進学応援金を贈ります。

私たちは、社会的養護で暮らし、進学を目指すみなさんが、その想いを実現し、これからの時代を担うことの支えになりたいと考えています。

2020年度より制度内容を大幅に変更しました。詳細は裏面をよくお読みください。

主催 朝日新聞厚生文化事業団

児童養護施設・里親家庭等の 進学応援金

対 象
※本事業は、2021年4月に新たに大学、短大、専門学校に入学する方が対象です。
①本申し込み時点で、児童養護施設、里親家庭（ファミリーホーム含む）で暮らし、2021年4月に新たに大学、短大、専門学校に進学を希望している人。
②自立援助ホームで暮らし、2021年4月に新たに大学、短大、専門学校に進学を希望している人。
また、上記①、②のいずれかを満たす人のうち、以下の気持ちを持っている人。
●自らの未来に希望を持ち、大学・短大・専門学校への進学意欲がある。
●社会的養護を良くすることに役立ちたいという希望がある。
※進学する学部や将来希望する職業などは問いません。
※ただし、4月以外に入学する人は対象となりません。
※従来、自立援助ホームからの進学希望の人にあった年間要件は無くありません。
※今まで規定していた「他団体による年間60万円以上の返済不要の奨学金との併給要件」は無くありません。

締め切り
2020年8月12日（水）（当日必着）

選考方法・結果の連絡
申込書類をもとに朝日新聞厚生文化事業団内に設けた選考委員会にて選考を行い、10月初旬に結果をご連絡いたします。

贈呈の方法
①入学金
進路決定時期（進学先学校の合格）に合わせて、児童養護施設、里親を通じて贈ります。
②学生応援金
原則毎年3月末までに翌年度分の応援金（30万円）を贈ります。
＜その他＞
①本人申込書と資金計画表、課題提出用紙は必ず本人が自分で作成してください。
②選考経過、個別の採否の事由についてはお答えできません。
③贈呈を受ける人には、年1回程度開催する「ピアミーティング」にご参加いただけます。
※ピアミーティング…応援生のみならず一人ではないことを知り、支え合うために開催します。
全国各地での開催を予定し、これからの社会的養護を一緒に考え、地域の施設、里親、行政のみなさんと意見交換なども行う予定です。
④進学後、在学中は半年ごとに「近況報告書」と「学習証明書」を提出していただきます。
⑤申込時に提出された個人情報、当事業団の個人情報保護方針に基づき守られます。

応募書類送付先
〒104-0061 東京都中央区銀座 7-16-12
G-アビルディング 9 階 株式会社ウィズアス内「進学応援金」事務局

お問い合わせ 朝日新聞厚生文化事業団「進学応援金」係
TEL: 03-5540-7446
Email: shingaku@asahi-welfare.or.jp

この事業は朝日新聞厚生文化事業団に寄せられたご寄付と山岡こども応援資金などによって行っています。
子どもたちを支援するために、ご寄付をいただけています。詳細は朝日新聞厚生文化事業団（電話03-5540-7446）へお問い合わせください。

事業名	児童養護施設・里親家庭等進学応援金ピアミーティング
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	児童福祉事業
主催	ピアミーティング実行委員会、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2020 年度
事業の概要	進学応援金を受けている応援生が集うオンラインの集い
日時	2021 年 3 月 19 日、20 日
場所	オンライン開催
事業の目的	応援生の交流。応援生による「ぴあ活動」の推進。
事業の内容	・レクリエーションゲーム ・新入生への説明会 ・グループ交流「みんなに聞いてみたいこと」（応援 LINE 相談員協力） ・伊藤ヒロさん講演（児童養護施設出身・ハワイ在住、キッズハートツーハワイディレクター） ・グループ交流「ボランティア活動について考える」など
参加者数	延べ 93 人（19 日 45 人、20 日 48 人）
参加費用	無料

事業名	進学応援セミナー
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	児童福祉事業
主催	朝日新聞厚生文化事業団、NPO 法人なごやかサポートみらい
後援等	
事業開始年度	2020 年度
事業の概要	社会的養護の環境から大学・短大・専門学校などへの進学をめざす中学生・高校生や施設職員、里親を対象に実施しました。講師のなごやかサポートみらい理事長の蛭沢光さんほか、進学のための心構えや経済的な準備などについて解説しました。
日時	9 月 27 日
場所	オンライン
事業の目的	社会的養護のもとで暮らす中高生とその支援者に、高卒後の進学に必要な具体的な情報提供をすることで、進路選択の幅を広げる後押しをする。
事業の内容	・基調講演「社会的養護から進学をするということ～私の体験」(なごやかサポートみらい理事長・蛭沢光さん) ・各種奨学金制度について ・マジックと音楽による応援プログラム (ミュージシャン&マジシャン&翻訳家・大友剛さん) ・分科会①先輩学生に質問してみよう! ②支援者のみなさんへ「当事者からのメッセージ&質疑応答」
参加者数	53 人
参加費用	500 円

ONLINE 進学応援セミナー

社会的養護から進学を目指す人たちへ

社会的養護の環境から、大学、短大、専門学校への進学を目指す人たちへ、実際に受験を経験した人たちから、応援の気持ちを込めて、アドバイスをします! 多くの人たちに参加していただき、ぜひ前向きな気持ちで進学を目指していけるように願っています。

主催: なごやかサポートみらい 朝日新聞厚生文化事業団

ONLINE 進学応援セミナー ～社会的養護から進学を目指す人たちへ～

大学などに進学を目指す方々、その子どもたちと関わる施設職員・里親さんを対象として、オンラインツール(ZOOM)を使ったの進学応援セミナーを開催します。

実際に社会的養護の環境から受験をされた経験などを踏まえ、進学への準備やアドバイスに関する講演、今からでも応募が間に合う全国の奨学金制度についての紹介など、進路の選択に役立つ情報提供を予定しています。また、マジック・音楽・絵本を合わせたスペシャル応援ステージ、先輩学生の皆さんによる体験談や、進学を目指す子どもにかかわる施設職員・里親さんへ向けたいわいセッションも予定し、幅広く進学にかかわる人たちに「応援」する時間とします。

対 象: 全国の児童養護施設、児童家庭、自立援助ホームで暮らし、進学を目指す中学生・高校生、および施設職員や里親など子どもにかかわる大人

日 時: 2020年9月27日(日)13:00～15:15

参加費: 500円(事前申込制、オンライン申込みのみ)

定 員: 合計200人(進学を目指す人100人/施設職員・里親100人)

※上記定員に達した場合は、受付を終了します。

当日のプログラムスケジュール

13:00	基調講演
13:45	【社会的養護から進学をするということ～私の体験～】 NPO法人なごやかサポートみらい理事長 蛭沢光さん
13:45	これから申し込みができる奨学金制度について NPO法人なごやかサポートみらい 水野梨沙さん
14:00	応援プログラム ～マジック・音楽・絵本スペシャルライブ 出演: ミュージシャン&マジシャン&翻訳家 大友剛さん
14:30	①【子ども】先輩学生に質問してみよう! 先輩学生との体験談を聞いて分らないことを質問してください。 NPO法人なごやかサポートみらい 水野梨沙さん
15:15	②【大人】支援者の皆さんへ 当事者からのメッセージ&質疑応答 NPO法人なごやかサポートみらい理事長 蛭沢光さん

講師のご紹介

蛭沢 光さん
1986年、東京生まれ。7歳から児童養護施設に入所し、高校卒業後、大学を卒業。日本福祉大学に入学し、大学卒業後、児童養護施設で施設職員として勤務。2014年からNPO法人で活動し、現在は「進学」をテーマに活動中。

水野 梨沙さん
1999年生まれ。中学卒業後に児童養護施設に入所し、高校卒業後、日本福祉大学に入学し、大学卒業後、児童養護施設で施設職員として勤務。2014年からNPO法人で活動し、現在は「進学」をテーマに活動中。

大友 剛さん
1978年生まれ。音楽家、マジシャン、翻訳家。児童養護施設で施設職員として勤務。2014年からNPO法人で活動し、現在は「進学」をテーマに活動中。

お問い合わせ/お申込み
朝日新聞厚生文化事業団「進学応援基金」係
お申し込みは2020年9月24日(木)までお申し込みください。
お申し込みは2020年9月24日(木)までお申し込みください。
お申し込みは2020年9月24日(木)までお申し込みください。

当事業団ホームページ内のリンクから、9月24日(木)までお申し込みください。
お申し込みは2020年9月24日(木)までお申し込みください。
お申し込みは2020年9月24日(木)までお申し込みください。

http://www.asahi-welfare.or.jp/



蛭沢光さん



大友剛さん

事業名	朝日夏季保育大学特別メッセージ動画配信
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	児童福祉事業
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	長野県諏訪市（共催）
事業開始年度	2010 年度以前
事業の概要	保育士や幼稚園教諭ら、乳幼児の育ちにかかわる人たちが実技講習を受けたり最新の子どもたちに関する動向を学ぶため、長野県諏訪市にて2日間の日程で行う講演型のプログラムです。毎年保育分野だけでなく様々なジャンルで活躍している著名人なども登壇し、様々な視点から保育を見つめるきっかけづくりの場を提供しています。
日時	7 月 10 日から
場所	オンライン
事業の目的	全国の保育に関わる方々を対象とした「第 67 回朝日夏季保育大学」は新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を鑑み、開催を見送りとしました。そこで登壇予定であった講師からに、保育にかかわるすべての人たちに向けてのメッセージを専用 Youtube チャンネルから配信しました。
事業の内容	5 人の方からメッセージをいただきました。 ・天野耕太さん（バランス曲芸師、アトリエ〇〇代表） ・しげちゃん一座（俳優・室井滋、絵本作家・長谷川義史、ジャズ・サックス・フルート奏者・岡淳、ミュージシャン・マジシャン&翻訳家・大友剛） ・橋井健司さん（幼稚園 First Classroom 世田谷 園長、新教育デザインング株式会社 代表取締役） ・隈本邦彦さん（江戸川大学教授） ・野口健さん（アルピニスト）
参加者数	
参加費用	無料



上：左から天野耕太さん、隈本邦彦さん、
橋井健司さん、野口健さん
下：しげちゃん一座

事業名	朝日オンライン保育ラボ
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	児童福祉事業
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	【第 1 回】 長野県諏訪市（共催）【第 2 回】 株式会社ソングブックカフェ（協力）
事業開始年度	2020 年度
事業の概要	保育について参加者と講師が一緒になって考えるオンラインの学びの場です。第 1 回目は大友剛さん、橋井健司さんを講師に迎え、マジックの披露や講演をしていただき、質疑応答の時間もありました。第 2 回目は、中川ひろたかさんらソングブックカフェのメンバーによる公演。「あそびうた」、ダンスや歌などをステージで披露いただきました。保育現場で実践するためのポイントの解説、質疑応答もありました。
日時	【第 1 回】 10 月 11 日 【第 2 回】 12 月 20 日
場所	オンライン
事業の目的	新型コロナウイルスの感染拡大で社会が大きな変化を迎えている中、子どもたちが楽しめることや子どもとのかかわりについて、全国各地の参加者同士がともに考え、ともに学べる場をつくることで、子どもの健やかな育ちを支えていくことにつなげる。
事業の内容	【第 1 回】 対象：子どもとかかわるすべての人 ・第 1 部：マジックの披露、けんぱんハーモニカの演奏、絵本の朗読など（大友剛さん）、質疑応答 ・第 2 部：講演「保育とは何か？～コロナ禍で見てきた新しい保育のかたち～」（橋井健司さん）、質疑応答 【第 2 回】 対象：保育士・保育教諭、幼稚園教諭など保育に関わる人 ・あそびうたやダンス、歌をステージで公演、現場で実践するためのポイントなどの解説（シンガーソングライター・中川ひろたかさん、あそび歌作家・鈴木翼さん、あそびうたデュオ・ロケットくれよん、あそびうた作家・福田翔さん、キッズミュージックユニット・gaagaaS）、質疑応答。
参加者数	【第 1 回】 第 1 部 34 人、第 2 部 19 人 【第 2 回】 269 件（【内訳】 個人：232 人 園：37 アカウント）
参加費用	【第 1 回】 無料 【第 2 回】 個人 3,300 円、保育園・幼稚園などの施設：1 万 6500 円



あそびうたの実演をする
ソングブックカフェのメンバー
(第 2 回)

事業の名称	【新型コロナ緊急支援】ひとり親家庭・子ども支援便
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	児童福祉事業
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2019 年度
事業の概要	新型コロナウイルスの感染拡大により、生活にお困りのひとり親家庭に緊急支援としてお米を送りました。認定 NPO 法人しんぐるまざあず・ふぉーらむに助成し、団体の独自支援分などとあわせて合計 1100 世帯へ届けました。
時期	20 年 3 月
助成の目的	新型コロナウイルスの感染拡大により、生活に困難を抱えたひとり親家庭を対象とした支援。
助成団体	認定 NPO 法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ（東京都千代田区）
助成した人数	
助成総額	200 万円
その他	



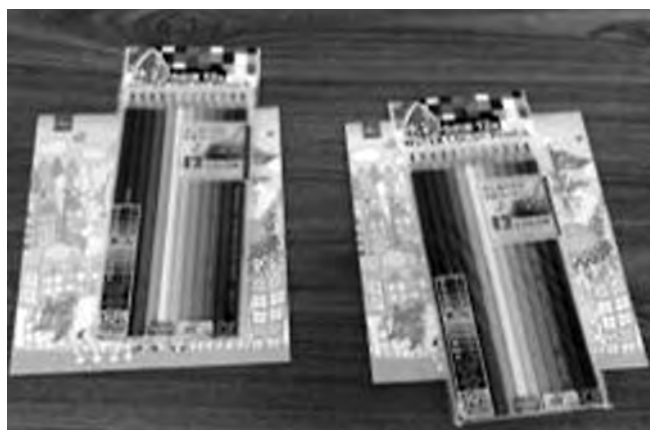
お米を受け取ったご家族

事業の名称	①こども食堂ブロック団体・地域ネットワーク団体立ち上げ助成 ②むすびえ全国交流会開催費補助
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	児童福祉事業
主催	NPO 法人全国こども食堂支援センターむすびえ
後援等	
事業開始年度	2020 年度
事業の概要	全国こども食堂支援センターむすびえを通じて、第 2 回九州・沖縄 Oneteam ミーティング北九州大会での交通費の支援、また、これから設立されるこども食堂地域ネットワークのうち、規模が小さく特に支援が必要と考えられる 2 県（秋田県、和歌山県）の取り組みを、会議交通費等の面で支援しました。また、むすびえ全国交流会をリアルとオンラインで実施するための会場、設備利用費について支援しました。
時期	① 11 月～21 年 3 月（事業の実施時期）、② 21 年 2 月、12 月（送金）
助成の目的	こども食堂の地域ネットワーク団体の基盤強化のための催しや会議にあたって、交通費や会場費など、資金面で支援を行うこと。
助成団体	NPO 法人全国こども食堂支援センターむすびえ（東京都新宿区）
助成した人数	
助成総額	250 万円
その他	

事業の名称	東淀川ドロップインランチ
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	児童福祉事業
主催	NPO 法人 女性と子育て支援グループ「pokkapoka」
後援等	朝日新聞厚生文化事業団（後援）
事業開始年度	2020 年度
事業の概要	思いがけない妊娠や育児困難などに悩む女性を、ランチ会に招待して問題解決につなげる活動です。大阪市東淀川区で活動する pokkapoka と東淀川区役所が協力して行っています。「ドロップイン」とは「気軽に立ち寄る」という意味で、ランチ会という場で相談者にリラックスしてもらい、スタッフがその場で様々な悩みを聞き出し、その後のフォローにつなげる実効性のある活動です。
時期	通年（年間 10 回程度）
助成の目的	母子の孤立、ひきこもりや乳幼児の虐待を防ぐことを目的としていて、活動実績のある団体をサポートすることで母子の心身の健康を守ることに貢献しています。
助成団体	NPO 法人 女性と子育て支援グループ「pokkapoka」（大阪市）
助成した人数	
助成総額	50 万円
その他	



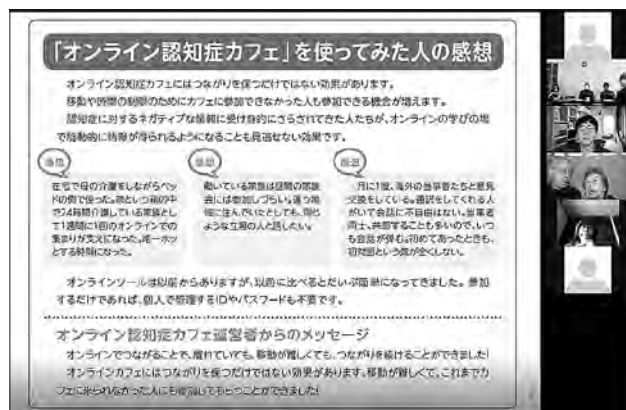
ランチ会でのフリータイムの様子



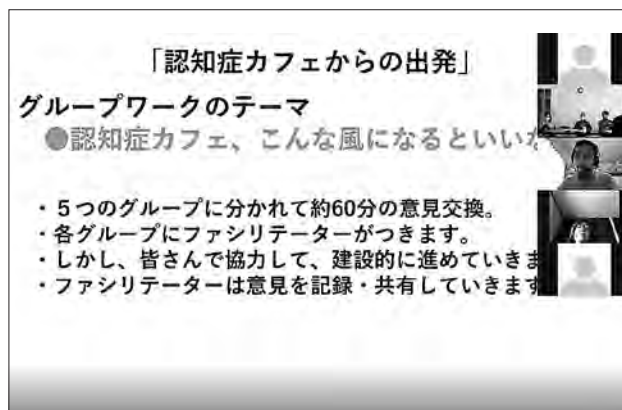
食事を共にするだけでなく、ヨガ、ハンドマッサージ、塗り絵、クラフトなどを行いリラックスする時間も大切にしています。

事業名	ひとり親家庭への親子で楽しむオンライン体験ツアー
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	児童福祉事業
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	特定非営利活動法人リトルワンズ（共催）
事業開始年度	2020 年度
事業の概要	ひとり親家庭を対象としたオンライン体験ツアーを 21 年 2 月 28 日に実施予定でしたが、ミャンマー情勢の影響で、延期となりました。ツアーが延期となったため、参加者がツアー中に食べる予定だったお弁当の配達のみ実施しました。参加予定だった方 100 人に、ミャンマー料理のお弁当を配送しました。
日時	21 年 2 月 27 日（お弁当の配達開始日）～3 月 2 日（お弁当配達完了日）
場所	なし
事業の目的	コロナ渦で厳しい生活状況にあるひとり親家庭の親子が心身ともにリフレッシュし楽しむこと、そして子どもに学びの機会を提供すること
事業の内容	オンライン体験ツアーに参加予定だった 100 人に、ミャンマー料理のお弁当を届けました。
参加者数	100 人
参加費用	無料

事業名	フォーラム「認知症カフェからの出発 Next」
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	高齢者福祉事業
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2017 年度
事業の概要	2016 年度、17 年度に実施した「ともにつくる認知症カフェ開設応援助成」事業の助成団体や、フォーラム「認知症カフェからの出発」の参加者らを対象に実施しました。21 年 1 月に開催した「交流会」であがった課題、「コロナ禍で途切れかかっている地域とのつながりの持ち方」などにも触れながら、武地一医師が「今、あらためて考える認知症カフェの役割」をテーマに講演したほか、助成団体による 3 年間の活動報告、認知症カフェの今後の展開について考えるグループワークを行いました。
日時	2021 年 2 月 27 日
場所	オンライン
事業の目的	認知症カフェの運営に携わる者同士のネットワークを構築し、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを共に考え、次の実践につなげていく。
事業の内容	・実践報告「認知症カフェを開設して～これまでとこれから～」 ①特定非営利活動法人 住まい・まち研究会（千葉県成田市） ②青山 1000 人会（兵庫県姫路市） ③うたせ認知症を考える会（千葉県千葉市） ・講演「今、あらためて考える認知症カフェの役割」（藤田医科大学医学部認知症・高齢診療科教授・武地一さん） ・グループワーク「認知症カフェからの出発」（進行：ラボラトリオ株式会社 代表取締役 南伸太郎さん）
参加者数	33 人
参加費用	無料



武地一さんによる講演



南伸太郎さん進行によるグループワーク開始時

事業名	オンライン交流会「認知症カフェからの出発」
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	高齢者福祉事業
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2020 年度
事業の概要	当事業団が2016年度から実施している「ともにつくる認知症カフェ開設応援助成」事業の助成団体や、フォーラム「認知症カフェからの出発 2020」の参加者ら認知症カフェの運営に携わっている人を対象に実施しました。コロナ禍の中で集うことが難しかった1年間を振り返り、その中でもつながりを途切れさせないために行った工夫、あらためて見えてきた認知症カフェの役割について意見交換を行いました。
日時	2021 年 1 月 30 日
場所	オンライン
事業の目的	認知症カフェの運営に携わる者同士が、情報共有、意見交換を行うことで、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを共に考え、次の実践につなげていく。
事業の内容	次のテーマについて意見交換を実施 ・2020年度の活動について（コロナ禍の中での活動状況、開催できない間につながりを維持するために工夫していたこと、新しく開始したことなど） ・認知症カフェが果たす役割 ・その役割を達成するために、今、課題だと感じていること
参加者数	17 人
参加費用	無料



交流会に参加くださった皆さま

事業名	認知症フレンドリーキッズ授業
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	高齢者福祉事業
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2019 年度
事業の概要	小学校高学年の子どもたちを対象にした、認知症について正しい理解を学ぶ授業です。認知症の人の特徴や対応の仕方などを知り、地域で暮らす認知症の人との「共生」について考える内容です。認知症の人が置かれた状況をバーチャルリアリティー（VR）で体験できるのが特徴です。授業の最後はグループに分かれて、認知症の人の気持ちや、認知症の人に役立つお店やサービスをポスターに書き込み発表します。
日時	8 月 4 日（淀商業高校）、11 月 2 日（望洋台小学校）
場所	大阪市立淀商業高校、北海道小樽市望洋台小学校
事業の目的	
事業の内容	
参加者数	淀商業高校の福祉ボランティア科の生徒 40 人、望洋台小学校の 6 年生 43 人
参加費用	



バーチャルリアリティーを体験する望洋台小の児童たち



認知症について学ぶ淀商業高校の生徒たち

事業名	認知症マフワークショップ
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	高齢者福祉事業
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2018 年度
事業の概要	英国の病院や高齢者施設で認知症の人が使っている筒状のニット小物「Twiddle Muff」(トゥイドルマフ)の製作と普及を目指したワークショップです。マフの内側には小物が縫い付けられていて、認知症の人がこれを触ると安心感が得られるそうです。イギリスでは多くのボランティアが製作して病院や高齢者施設に送っています。厚生文化事業団ではこれを「認知症マフ」と名付け、普及活動の一環としてマフの作り方とボランティアのグループ活動について学ぶワークショップを開催しています。
日時	2021 年 2 月 20 日
場所	オンライン
事業の目的	認知症の人が使って喜んでもらえることのみならず、マフ作りを通じて地域の活性化を図り、当事者や家族、作り手がつながる認知症にやさしい地域づくりを推進するのが目的です。
事業の内容	緊急事態宣言が発令中だったため、今回は完全にオンラインでの開催になりました。まず認知症マフとは何かを知ってもらい、実際にボランティアグループが製作した認知症マフを高齢者施設に贈呈した広島県府中町社会福祉協議会生活支援コーディネーターの檜山亮さんが自分たちの活動を話しました。編み方の講師はニット作家の能勢マユミさんを迎え、参加者は事前に郵送したキットを使ってマフを製作しました。
参加者数	88 人
参加費用	1500 円



オンラインワークショップの撮影会場の様子

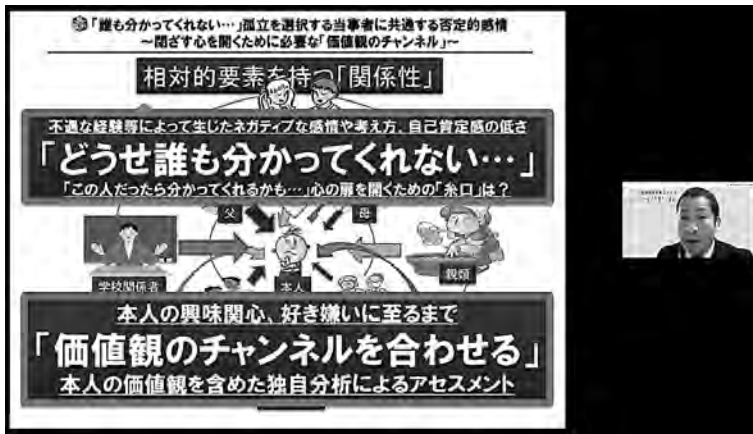
職場から参加してくださった大阪市生野区
地域包括支援センターの職員の皆さん

事業名	ゆうゆうビジット
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	高齢者福祉事業
主催	朝日新聞厚生文化事業団主催
後援等	
事業開始年度	2010 年 2 月から
事業の概要	普段、外出の機会が少ない高齢者施設を利用する人たちのもとを、著名な音楽家や俳優、大相撲の力士らが訪れ、演奏などを披露するプログラムです。ひとときの豊かな時間を届ける、パフォーマーと高齢者の心をつなぐプログラムです。
日時	① 6 月 19 日 ② 7 月 20 日
場所	
事業の目的	
事業の内容	2020 年度はコロナ禍により実際に施設を訪問することができなくなりました。かわりに YouTube のライブ配信を利用して、6 月 19 日と 7 月 20 日の 2 回、リモートコンサートを実施しました。またテレビ会議システム Zoom を使って各施設の職員と交流しました。 ①ベルリントリオ（ピアノ・宮本聖子さん、バイオリン・宮田英恵さん、チェロ・石田聖子さん）によるクラシック音楽と童謡の演奏会 介護老人保健施設「徐福の里」（佐賀市）ほか全国 58 カ所の施設が視聴しました。 ②俳優の日色ともゑさんによる朗読と、音楽ユニット、マリオネットによるポルトガルギターとマンドリンの演奏会 特別養護老人ホーム「輪中の郷」（愛知県弥富市）のほか全国 52 施設が視聴しました。
参加者数	① 58 施設 ② 52 施設
参加費用	無料

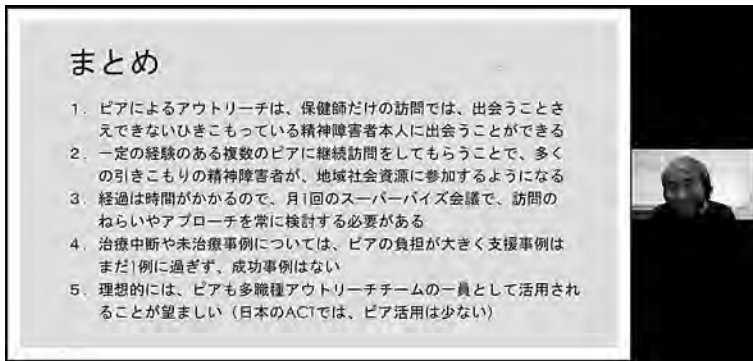


左からリモート演奏するマリオネット（大阪市）、劇団民藝の事務所（東京都港区）から朗読する日色ともゑさん、演奏に聴き入る逗子清寿苑の利用者ら（神奈川県逗子市）

事業名	オンライン講演会「精神障害のある人へのアウトリーチサービスがあたりまえになる社会」～どんな時もつながりを途切れさせないために～
事業種別 1	福祉事業
事業種別 2	障害者福祉事業
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	認定 NPO 法人地域精神保健福祉機構コンボ（後援）、公益社団法人全国精神保健福祉会連合会みんなねっと（後援）
事業開始年度	2018 年度
事業の概要	精神障害のある当事者、家族、支援者、その他関心のある人を対象に、若者支援、ピアサポーターの活躍など、「つながり」をつくっていくための、多様なアウトリーチ支援について、メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ院長伊藤順一郎さんや、認定特定非営利活動法人 スチューデント・サポート・フェイス 代表理事の谷口仁史さん、兵庫県但馬県民局豊岡健康福祉事務所（保健所）所長の柳尚夫さんが実践をもとに話しました。
日時	11 月 21 日
場所	オンライン
事業の目的	精神障害のある人が地域で豊かに暮らしていくことを支えるアウトリーチ支援（訪問支援）の本質、今後の可能性を参加者とともに探り、地域づくりにつなげる。
事業の内容	・ オープニング（メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ院長・伊藤順一郎さん） ・ 講演「不登校、ひきこもり、ニート等アウトリーチを用いた多面的アプローチ～社会的孤立・排除を生まない支援体制の確立に向けて～」（認定特定非営利活動法人 スチューデント・サポート・フェイス 代表理事・谷口仁史さん） ・ 講演「地域をつなぐアウトリーチ支援とピアサポート体制の充実」（兵庫県但馬県民局豊岡健康福祉事務所所長・柳尚夫さん） ・ てい談「精神障害のある人へのアウトリーチサービスがあたりまえになる社会～どんな時もつながりを途切れさせないために～」（伊藤順一郎さん、谷口仁史さん、柳尚夫さん）
参加者数	70 人
参加費用	1,000 円



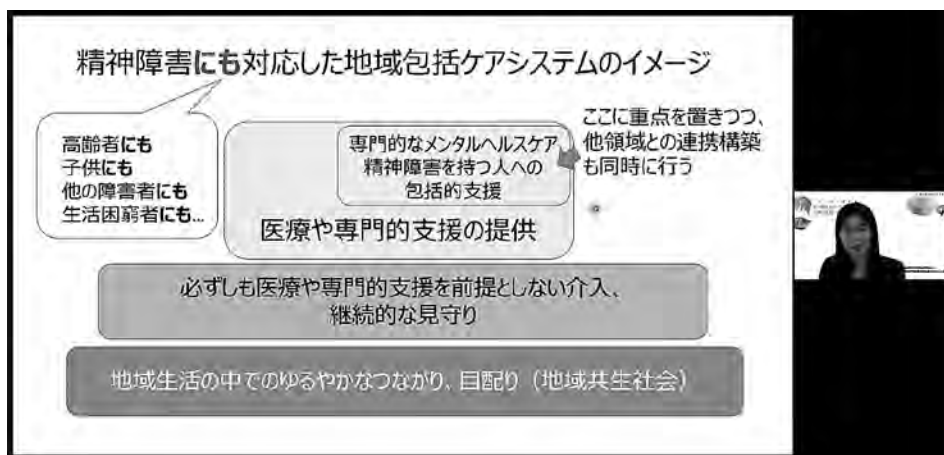
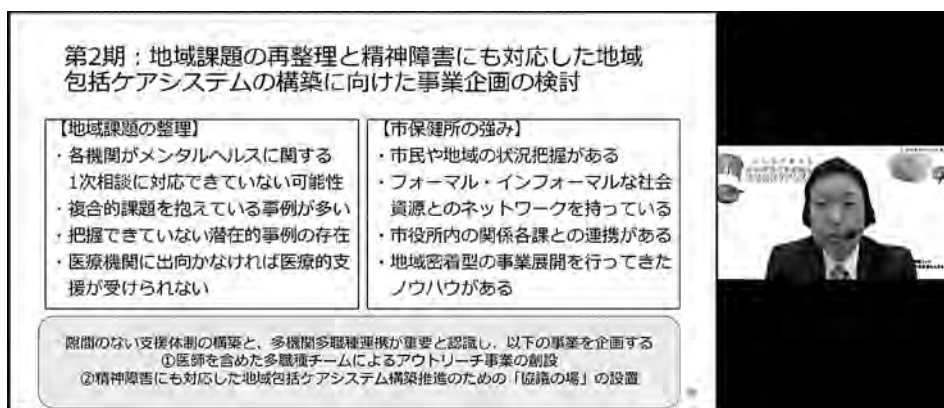
谷口仁史さんの講演



柳尚夫さんの講演

てい談の様子（左上：伊藤順一郎さん、
右上：柳尚夫さん、下：谷口仁史さん）

事業名	ワークショップ「みんなで考える 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	障害者福祉事業
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	認定 NPO 法人地域精神保健福祉機構コンボ（後援）、公益社団法人全国精神保健福祉会連合会みんなねっと（後援）
事業開始年度	2020 年度
事業の概要	精神障害のある当事者、家族、行政関係者、医療福祉関係者、地域のサポーターなどを対象に開催しました。精神科医の藤井千代さんや精神保健福祉士の岡本秀行さんが「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の理念や目指す方向、実践例について話したあと、参加者とともに、精神障害のある人が豊かな暮らしを実現できる地域のあり方、そのために、一人ひとりができることを考えました。
日時	2021 年 2 月 13 日
場所	オンライン
事業の目的	精神障害のある人が豊かな暮らしを実現できる地域のあり方を、参加者とともに考える。「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築にあたり、障害のある当事者やそのご家族の声が反映される実践になることを目指す。
事業の内容	・講義「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについて」（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域・司法精神医療研究部 部長・藤井千代さん） ・実践報告「川口市におけるアウトリーチ事業を活用した『精神障害にも対応した地域包括ケアシステム』構築の取り組み」（川口市保健所 疾病対策課 精神保健係・岡本秀行さん） ・疑問・不安・意見、なんでもありの大質問タイム（藤井千代さん、岡本秀行さん、進行：認定 NPO 法人地域精神保健福祉機構コンボ・久永文恵さん） ・個人ワーク・発表「安心して地域で暮らしていくために必要な環境や支援、実践したいこと」（進行：藤井千代さん）
参加者数	241 人
参加費用	無料

藤井千代さんによる
講義岡本秀行さんによる
実践報告

ワークショップ みんなで考える 精神障害にも対応した 地域包括ケアシステム

精神障害のある人が、地域での豊かな暮らしを継続するための希望や必要な環境、それぞれの立場で実践したいこと、などワークショップにご参加いただいた皆さまの声をまとめました。

精神障害についてピアサポート活動がもっともって盛んになればいいです。私の夢は地域でのピアサポート活動の拠点をつくることです。当事者が作り上げていくインフォーマルサービスというものを目標しています。（精神障害のある当事者）

ピアサポーターとして、自ら出向き、行政や事業所などにアプローチを無理なき範囲でかけていきたいです。地域活動支援センター等事業所などでのメンバーの自主性を尊重しながら自らの特技をいかしてプログラム作成、運営を続けていきたいと思いました。（相談支援事業所のピアサポーター）

訪問看護ステーション勤務の看護師です。精神障害のある方のお宅に主に訪問に伺っています。利用者さんやご家族の望む生活のために自分ができることをひとつずつ丁寧に動いていきたいと改めて思いました。

福祉施設で相談窓口とグループホームを担当しております。病院や市役所には連携させてもらっていますが、地域に住む課題を抱えた方との交流の機会はなかなかありません。今後はコロナ対策の制限はありますが、施設でのそのような方々との交流ができるようなイベントがしたいと考えます！

地域の人、企業や民間団体、もちろん当事者・家族を中心において皆でつながる地域、社会、それを作る小さい力・一員として尽力していきたい

ざっくばらんに意見交換できる場作り。出向いて情報を得ていく姿勢、実践したいです。

「我が事」として取り組める空気作りを関係機関と行えればと考えました。関係者が抱える思いを聴き、参加意識のもてる取り組みの立案を起点に、当事者やその家族が抱える思いを取り組みに乗せて発信することが重要と感じました。そのためにも、やはりどんな支援者がいるか、課題意識のある支援者・当事者は地域のかどにいるか、など「自分の地域を探索」してみようと思います。（相談支援事業所・相談支援専門員、にも包括関係推進事業を受託法人所属）

兵庫県でピアサポート活動を行っています。地域の一般の方々との交流に関して積極的にやっていき、精神疾患についての理解を深められれば、これから退院を考えておられる方も含め、当事者、一般の方双方にとって暮らしやすい状況が作れるのではないかと思います。

近隣住民の方が、精神障害について、知る機会を沢山作ることが必要と思われます。身近な生活の中で考えて行きたいと思います。（家族、障害福祉サービス運営）

スティグマを解消するためには、教育や啓発も大切だが、身近に地域で違和感なく生活できる環境が必要だと感じています。地域の理解・インフォーマルの方との接点を自然に共有できるイベントや催しを定期的に開催できる地域にしていきたいです。

ピアサポーターとして、自ら出向き、行政や事業所などにアプローチを無理なき範囲でかけていきたいです。地域活動支援センター等事業所などでのメンバーの自主性を尊重しながら自らの特技をいかしてプログラム作成、運営を続けていきたいと思いました。（相談支援事業所のピアサポーター）

訪問看護に従事する看護師です。まずは顔の見える関係づくり、そして「保健」「医療」「福祉」それぞれの得意・不得意を知る努力とその支え合い、そして齟齬のないよう丁寧な協議を心掛けたいと思います。

病院での活動も地域生活のために、個別に対応していく必要性を感じています。現在は法律上、作業療法士は集団対応が多く、個別ケアには時間を割きにくい状況ですが、その中でも、退院後の生活に視点を置いたプログラムを提供できるようにしていきたいと思っています。（精神科病院・作業療法士）

アウトリーチは「目的ではなく手段」であるということを念頭に、医療につながるものがゴールではなく、そこから継続した医療・福祉を展開していけるように協力していきたいです。（医療機関の相談員）

訪問看護に従事する看護師です。まずは顔の見える関係づくり、そして「保健」「医療」「福祉」それぞれの得意・不得意を知る努力とその支え合い、そして齟齬のないよう丁寧な協議を心掛けたいと思います。

現在専門職だけの議論になっている面が強く、当事者はただの支援対象で「ともに生きる」とことはほとんど考えられていない傾向があるように感じますので、行政・保健所・事業所職員・民生委員・ピアサポーター・自助グループ・当事者・家族など、精神障害に関わる人たちが一緒に考えていけるような場・環境作りが必要だと感じます。実現に向けてできることから考えていこうと思います。

地域の協議の場には私たち家族も積極的に参加していきたいと思っています。

ワークショップで参加者一人ひとりが考えた、地域で実践すべきことや、
必要な環境についてまとめた報告書

事業名	精神疾患をもつ親に育てられた子どもの立場の「つどい」
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	障害者福祉事業
主催	精神疾患の親をもつ子どもの会・こどもぴあ、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2018 年度
事業の概要	精神疾患の親をもつ子どもの会・こどもぴあ運営のもと、「子どもの立場」の人たちが集まり、自らの体験やこれまで誰にも話すことができなかった思いなど、一人で抱えてきたことを、グループにわかれて話しました。オンラインでの開催は初の試みとなりましたが、青森から沖縄まで全国各地からの参加がありました。当事業団は運営をサポートしています。
日時	① 7 月 19 日 ② 9 月 6 日 ③ 11 月 23 日 ④ 3 月 14 日
場所	オンライン
事業の目的	精神疾患のある親に育てられた子どもの立場の人が出会える場・安心して集える場をつくり、今現在困難な状況にある子どもたちが S O S を発するきっかけをつくっていく。 子どもの立場のピアサポート活動を後押しする。
事業の内容	・「こどもぴあ」運営メンバーによる体験発表 ・小グループにわかれての語り合い
参加者数	① 7 月 19 日 = 23 人 ② 9 月 6 日 = 20 人 ③ 11 月 23 日 = 20 人 ④ 3 月 14 日 = 23 人（運営メンバー含む）
参加費用	無料



終了後、運営メンバーで撮影

事業名	第 37 回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	障害者福祉事業
主催	朝日新聞厚生文化事業団、一般財団法人全日本ろうあ連盟、株式会社朝日新聞社
後援等	公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構 東京都聴覚障害者連盟（協力）、厚生労働省、文部科学省、社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団、一般社団法人日本手話通訳士協会、全国聾学校長会（後援）、日本電気株式会社（NEC）（協賛）
事業開始年度	1984 年
事業の概要	1984 年から手話の普及とボランティア活動、福祉教育の推進を目的に始まった当事業は、今年で 37 回目を迎えました。全国の応募者 66 人から、原稿・映像審査で選ばれた 10 人の高校生が入賞しました。
日時	4 月 1 日（募集開始） 7 月 29 日（一次審査） 9 月 11 日（二次審査） 9 月 13 日（入賞者発表）
場所	オンライン
事業の目的	手話の普及とボランティア活動、福祉教育の推進。
事業の内容	【入賞者（特別賞）一覧】（敬称略） ・埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園 3 年 藤平愛 ・東京都・鷗友学園女子高等学校 2 年 南陽菜 ・東京都立大泉桜高等学校 3 年 星野夢愛 ・神奈川県立横浜南陵高等学校 2 年 河原花奈 ・愛知県・桜花学園高等学校 3 年 上田紗瑚 ・奈良大学附属高等学校 3 年 鈴木真奈 ・新潟県立燕中等教育学校 5 年 本田和 ・愛媛県・済美高等学校 2 年 高橋真衣 ・福岡県立久留米筑水高等学校 2 年 山田杏奈 ・熊本県立熊本聾学校 3 年 吉村章
参加者数	66 人（応募者）
参加費用	



事業名	障害者就労支援事業
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	障害者福祉事業
主催	朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2018 年度
事業の概要	障害者就労継続支援 B 型事業所「アリストランプ」(東京都中央区)が、仕事の依頼主である取引先の閉店により激減した収入を補うため、朝日新聞社のクラウドファンディングサイト「A-Port」で支援を呼びかけました。朝日新聞厚生文化事業団は、返礼品として用意したクッキーの材料費を負担し、この挑戦を後押ししました。
日時	9 月 23 日～11 月 13 日
場所	クラウドファンディングサイト「A-Port」(オンライン)
事業の目的	新型コロナウイルス禍によって激減した生産活動。今まで培った技術を発揮する機会と、自ら働きお金を稼ぐ喜びまでもが奪われぬよう、収入減少に苦しむ事業所が、新たな仕事を生み出すための手助けをしました。
事業の内容	プロジェクトの期間：2020 年 9 月 23 日～11 月 13 日 ご支援で集まった金額：63 万 2000 円 (目標額 50 万円、達成率 126%) ご支援くださった人数：94 人 返礼品の発送にかかった経費：15 万 4832 円 アリストランプ利用者の給料に充てられる金額：47 万 7168 円
参加者数	94 人
参加費用	



アリストランプの利用者

クラウドファンディング 就労継続支援B型事業所 アリストランプ

おいしい♡愛犬用クッキーづくりを応援して、
障害がある人のやりがいとお給料を守りたい!
プロジェクト

応援よろしく
おねがいします!

愛犬たちのためのクッキーを製造販売し障害のある方の就労を支援している
私たちアリストランプは、朝日新聞厚生文化事業団と協力し、
利用者さんのやりがいとお給料を守るため、クラウドファンディングに挑戦しています。
ぜひ応援よろしくお願いします。

支援期間
11月27日(金)まで

「A-Port」アリストランプのページへは <https://a-port.asahi.com/projects/alistrump/>

主催 アリストランプ(就労継続支援B型) 協力 朝日新聞厚生文化事業団
お問い合わせ 朝日新聞厚生文化事業団 TEL.03-5540-7446 <http://www.asahi-neifare.or.jp/>

事業名	聖明・朝日盲大学生奨学金
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	障害者福祉事業
主催	社会福祉法人聖明福祉協会、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	1969 年
事業の概要	視覚障害のある学生を支援するための奨学金。
日時	
場所	
事業の目的	
事業の内容	奨学金として在学期間中に毎月 4 万円を貸与する。 2020 年度の新奨学生として、2 名への貸与を決定。
参加者数	
参加費用	

事業名	第 39 回肢体不自由児・者の美術展／デジタル写真展
事業種別 1	社会福祉事業
事業種別 2	障害者福祉事業
主催	社会福祉法人日本肢体不自由児協会、各道府県肢体不自由児協会
後援等	厚生労働省、文部科学省、東京都、朝日新聞厚生文化事業団など
事業開始年度	2010 年度以前
事業の概要	肢体不自由児・者の生きがいづくりと、障害のある人に対する理解を深めることを目的に開催する美術展で、今年で 39 回目を迎えました。全国の肢体不自由児・者から 490 点（絵画、コンピュータアート、書）の応募があり、その中から特賞、優秀賞、佳作、努力賞の計 122 点、デジタル写真展では 846 点の応募作品の中から特賞、金賞、銀賞、銅賞の計 100 点が選ばれました。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、表彰式はオンライン会議ツール「zoom」を利用し、受賞者は学校や自宅などから式に参加しました。
日時	12 月 10 日～13 日
場所	東京芸術劇場（東京都豊島区）、オンライン
事業の目的	肢体不自由児・者の生きがいづくりと、障害のある人に対する理解を深めることを目的としています。
事業の内容	当事業団からは、特賞のうち 2 作品（書、絵画）に朝日新聞厚生文化事業団賞を贈りました。 書で朝日新聞厚生文化事業団賞を受賞した熊本県宇城市立小川小学校 2 年の蔵原和奏（くらはら・わかな）さんは、自身の作品に書いた「どりょく」にちなみ、画面を通じて「これからも努力します」と笑顔で話しました。 絵画で同賞を受賞した鹿児島県立串木野養護学校小学部 5 年の藤崎千晶（ふじさき・ちあき）さんは「ぞうのおやこの水あそび」というタイトルで、いきいきとした象の明るい表情が印象的な作品を描きました。
参加者数	
参加費用	



会場で賞状を読み上げる朝日新聞厚生文化事業団の是永事務局長と、絵画で朝日新聞厚生文化事業団賞を受賞した藤崎千晶さん



藤崎さんの作品



蔵原和奏さんの作品

公益事業

■福祉啓発・公衆衛生事業

自殺予防公開講座	42
西部朝日福祉助成金	43
第72回保健文化賞	44

■チャリティー事業

朝日チャリティー色紙イラスト展	45
朝日チャリティー美術展・名古屋展	46
親子で楽しむクリスマスコンサート	47

2020年度は、以下のチャリティー事業が中止となりました。

- ・各派合同三曲演奏会（大阪）
- ・チャリティーコンサート メサイア（東京）
- ・洋舞合同祭（大阪）
- ・各流合同茶会（大阪）

事業名	自殺予防公開講座
事業種別 1	公益事業
事業種別 2	福祉啓発・公衆衛生事業
主催	事業団、社会福祉法人福岡いのちの電話
後援等	福岡県（後援）、福岡市（後援）、九州朝日放送（後援）、朝日新聞社（後援）
事業開始年度	2010 年度以前
事業の概要	福岡市内の会場で年一回、外部の講師を招き「いのちの大切さ」「生きることの意味」など自殺の予防につながる講演会を実施しています。講演は無料で事前申し込み制で、一般の方とともに「いのちの電話」のボランティアスタッフも多く参加しています。
日時	2021 年 3 月 6 日
場所	レソラ N T T 夢天神ホール（福岡市）
事業の目的	自殺予防の啓発活動を主要な目的として、「いのちの電話」の電話応答のボランティアスタッフのモチベーションの向上にもつなげています。
事業の内容	・ 講師＝奥田知志さん（北九州市でホームレス支援に取り組む認定 N P O 「抱樸」の理事長。牧師） ・ 講演「私たちは何を大切にしてきたか～コロナの時代を生きる～」
参加者数	151 名
参加費用	無料



講演する奥田知志さん

福岡いのちの電話 自殺予防公開講座

講演

私たちは何を大切にしてきたか
～コロナの時代を生きる～

講師 奥田 知志氏
認定NPO 抱樸 理事長 牧師

プロフィール
NPO法人抱樸理事長・北九州市でホームレス支援に取り組む認定NPO「抱樸」の理事長。牧師。1963年生まれ。福岡学院大学経済学部、京都府立大学経済学部をそれぞれ卒業。
九州大学大学院経済学・経営学専攻修士取得。1990年、北九州市でホームレス支援活動を開始。2007年、学生時代から始めた「ホームレス支援」に北九州でも参加。事業局長を経て、北九州ホームレス支援センター（現 抱樸）の理事長に就任。これまでに3500人（2020年3月現在）以上のホームレスの方々の自立を支援。

日時 2021年 **3月6日 土**
14:00～15:30（開場13:30）

会場 N T T 夢天神 レソラホール
福岡市中央区天神2-5-55

参加費 無料

定員 150名

主催 社会福祉法人福岡いのちの電話
社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団

後援 福岡県・福岡市・九州朝日放送・朝日新聞社

*この事業は厚生労働省の補助を受けて実施しています。

参加申込方法
お申し込みは、裏面に自殺予防公開講座希望と明記の上、住所・氏名を添えて下記までファックスかメールで申し込んでください。
当日お名前をお知らせください。

福岡いのちの電話事務局
〒810-0073福岡市中央区舞鶴2丁目7-7
FAX 092-721-4343 TEL 092-713-4343
E-mail: find4343@sirius.ocn.ne.jp

事業の名称	西部朝日福祉助成金
事業種別 1	福祉事業
事業種別 2	福祉啓発・公衆衛生事業
主催	事業団
後援等	なし
事業開始年度	2005 年度以前
事業の概要	「福祉啓発推進事業」として、「社会福祉法人福岡いのちの電話」「社会福祉法人北九州いのちの電話」の 2 団体へ助成金を支給。「児童福祉事業」として、「公益社団法人福岡県交通遺児を支える会」に対して助成金を支給しています。
時期	年 1 回（1 月に申請書の提出を受け、3 月に支給）
助成の目的	地域で社会福祉事業を継続的に続けている団体を支援しています。使途は問わず、運営費として活用してもらうことで、各団体から喜ばれています。
助成団体	・社会福祉法人福岡いのちの電話（福岡市）15 万円 ・社会福祉法人北九州いのちの電話（北九州市）15 万円 ・公益社団法人福岡県交通遺児を支える会（福岡市）15 万円
助成した人数	団体に対する助成
助成総額	45 万円
その他	各団体ともに、民間からの寄付や行政からの助成金などを原資に活動していますが、2020 年度はコロナ禍で民間法人からの寄付が減額となり、収入面で厳しくなったとのことです。また、コロナの感染拡大防止のために、通常できていた活動が制約されることが多々あったということです。



西部朝日福祉助成金の目録を受け取った各団体の代表者。
左から、福岡いのちの電話（河邊正一事務局長）、
北九州いのちの電話（川尻正之事務局長）、
福岡県交通遺児を支える会（月原日出男事務局長）。

事業名	第 72 回保健文化賞
事業種別 1	公益事業
事業種別 2	福祉啓発・公衆衛生事業
主催	第一生命保険株式会社
後援等	朝日新聞厚生文化事業団（後援）、厚生労働省（後援）、社会福祉法人NHK厚生文化事業団（後援）
事業開始年度	
事業の概要	保健衛生分野や関連する福祉の向上、研究や発見に貢献した団体や個人を表彰します。事業団は賞の創設時から協力しており、現在は「朝日新聞社賞」としてトロフィーを贈っています。
日時	2月3日～4月17日（募集）、12月25日（審査結果発表）
場所	
事業の目的	保健衛生分野での、その時代におけるさまざまな課題に継続的に取り組んで来た方々を顕彰し、長年にわたる労苦に感謝と敬意をささげる。
事業の内容	・10団体と5人が受賞（応募42件） 【団体】グリーンローズ（秋田）▽ア・ドリーム ア・デイ IN TOKYO（東京）▽モンキーマジック（同）▽静岡県在宅保健師の会「つつじ会」▽大阪府済生会▽認知症の人とみんなのサポートセンター（大阪）▽兵庫さい帯血バンク▽健康で安心して住める花栗振興会（島根）▽みよしサポート協会びあぞら（徳島）▽高知県骨髄バンク推進協議会 【個人】団体役員・増田靖子（北海道）▽医師・田中志子（群馬）▽研究者・大淵修一（埼玉）▽訪問看護師・秋山正子（東京）▽研究者・池川志郎（同） ・厚生労働大臣から表彰状、第一生命から感謝状とともに賞金（団体200万円、個人100万円）、朝日新聞厚生文化事業団賞、NHK厚生文化事業団賞（記念品）が贈られる。 ・受賞者は表彰式翌日に天皇皇后両陛下に謁見するが、コロナ禍のため21年度の受賞者と合同で行うことになった。
参加者数	
参加費用	

- 45 -

事業名	朝日チャリティー美術展名古屋展
事業種別 1	公益事業
事業種別 2	チャリティー事業
主催	事業団、朝日新聞社
後援等	なし
事業開始年度	1954 年度
事業の概要	全国の美術家や各界の著名人らからの寄贈作品を原則入札で販売しました。
日時	2021/2/24～03/02
場所	名古屋三越栄店美術画廊（名古屋市）
事業の目的	収益を、子どもや高齢者、障害のある人たちなどを対象にした事業団が行う社会福祉事業に役立てます。
事業の内容	24 日から 27 日まで絵画、工芸などの新作と保有する在庫で高額作品計約 410 点を入札で販売しました。28 日から 3 月 2 日までは無札の作品に加え、在庫作品約 50 点を空いたスペースで追加展示し、販売しました。 販売数約 270 点、売上高約 2000 万円。
参加者数	
参加費用	



会場の様子



事業名	親子で楽しむクリスマスコンサート
事業種別 1	公益事業
事業種別 2	チャリティー事業
主催	株式会社ソングブックカフェ、朝日新聞厚生文化事業団
後援等	
事業開始年度	2000 年度
事業の概要	子どもから大人まで親子で一緒に楽しめる参加型のコンサートです。新型コロナウイルスの感染拡大により、コンサートの機会が減ってしまった 2020 年。そのような中、コンサートを心待ちにしてくださっていた方々に、中川ひろたかさん率いるソングブックカフェメンバーらが、音楽やダンス、たくさんのあそび、絵本の朗読など盛りだくさんの内容をお届けしました。
日時	12 月 20 日
場所	オンライン
事業の目的	クリスマスのひと時を、小さな子どもから大人まで一緒に楽しめる機会とするとともに、保育者が子どもとのかかわりのヒントを得られるようにする。 収益を福祉事業に充当する。
事業の内容	・ 中川ひろたかさん、鈴木翼さん、ロケットくれよんの山口たかしさん・高田さとしさん、福田翔さん、gaagaaS のまつむらしんごさん・別府のどかさん、本田洋一郎さんが出演 ・ 双方向で参加しながら、ライブの臨場感を楽しみたい方向けの Zoom 配信と、音質や画質にこだわって視聴したい方へおすすめのライブストリーミング配信で開催 ・ 世代を超えて愛される名曲「世界中のこどもたちが」のほか、「うさぎ野原のクリスマス」、「イチゴサンタクロースと踊りましょう」などのクリスマスソング、絵本の朗読、子どもたちも一緒に参加できる「あそびうた」や体操など 16 種類の遊びや歌が披露された
参加者数	201 組
参加費用	3,300 円



「にじ」の演奏と Zoom 参加者



「イチゴサンタクロースと踊りましょう」の演奏

朝日福祉ガイド 本・DVD のご案内

朝日福祉ガイドブック

- ・ 四行からはじめる遺言作成 Q & A 1,320 円
- ・ 生き方、逝き方ガイドブック 1,320 円
- ・ なるほど高次脳機能障害 1,320 円
- ・ みんなのうつ 1,100 円
- ・ 認知症とともに 1,100 円
- ・ 自閉症の人たちを支援するということ 880 円
- ・ 自閉症のひとたちへの援助システム 550 円
- ・ 100% あたたくん 660 円
- ・ くるまいす―第3改訂版 330 円
- ・ 新・川崎病がわかる本 改訂増補版 550 円

朝日福祉ガイド DVD

- ・ 自閉症の人が求める支援～よくわかる自立のためのアイデア～
全3巻セット 10,890 円、各巻 4,400 円
- ・ 自閉症の人が見ている世界～自閉症の人を正しく理解する～
全3巻セット 10,890 円、各巻 4,400 円
- ・ 自閉症の子どもの評価 生活スキル編
全4巻セット 18,480 円、各巻 4,950 円
- ・ 自閉症の子どもの自立課題
全3巻セット 13,860 円、各巻 4,950 円
- ・ TEACCH プログラムシリーズ～米国ノースカロライナ州にみる自閉症治療教育～
各巻 3,080 円
自閉症児の明日のために～TEACCH のねらいと考え方
親のための TEACCH プログラム
教師のための TEACCH プログラム
青年期・成人期の TEACCH プログラム

※本・DVD とともに価格はいずれも税込。

主な後援・協賛・協力事業一覧

日程	催事	
	主催者 ▶会場	

■東京事務所

4/13～15	第12回国際シニア合唱祭ゴールデンウェーブ in 横浜【中止】 NPO 法人ゴールデンウェーブ ▶横浜みなとみらいホール（横浜市西区）	特別 後援
4/26	全日本ろうあ連盟創立70周年記念映画「咲む」試写会【中止】 全日本ろうあ連盟 ▶有楽町朝日ホール（東京都千代田区）	後援
6/6	日本リウマチ友の会創立60周年記念全国大会【中止】 日本リウマチ友の会 ▶ホテルアソシア静岡（静岡市）	後援
6/11～14	「第68回全国ろうあ者大会」付帯事業 第35回全国聴覚障害者写真コンテスト 全国ろうあ者大会 in あいち実行委員会 ▶名古屋国際会議場	協賛
7/12	日本点字図書館第5回全国視覚障害者囲碁大会 日本点字図書館、日本福祉囲碁協会 ▶リフレッシュ氷川（東京都渋谷区）	協賛 助成
9/13	東京光の家チャリティーコンサート 東京光の家 ▶KOTORIホール（東京都昭島市）	後援
9/17	日本点字図書館 秋のチャリティー映画会 日本点字図書館 ▶中野 ZERO ホール（東京都中野区）	後援
9/19・20	リカバリー全国フォーラム2020 地域精神保健福祉機構 ▶オンライン開催	後援
9/27	第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 手話パフォーマンス甲子園実行委員会 ▶倉吉未来中心（鳥取県倉吉市）	後援
9月	第50回記念朗読録音奉仕者感謝行事 鉄道弘済会	後援
11/10	第17回本間一夫賞 日本点字図書館 ▶日本点字図書館（東京都新宿区）	後援
12/7～9	第58回弘済学園わたしたちが創る展 鉄道弘済会 ▶JR 東京駅丸の内地下南口動輪の広場内特設会場	後援
12/18～23	「憩いの家」資金バザー 青少年と共に歩む会 ▶日本橋高島屋（東京都中央区）	後援
12/25	第69回東京都社会福祉大会 東京都、東京都社会福祉協議会 ▶都庁第一本庁（東京都新宿区）	後援
2/27	日本児童養護実践学会第13回研究大会 日本児童養護実践学会 ▶オンライン開催	後援
3/3 ほか	第66回「耳の日」記念行事 日本耳鼻咽喉科学会 ▶全国各地	後援
3/6	こどもびあ オンラインセミナー in 広島 県立広島大学 広島市東区重点研究プロジェクトチーム ▶オンライン開催	後援
3/16	第8回「ニューヨーク合唱フェスティバル【中止】」 文化芸能国際交流機構 ▶カーネギー大ホール（米国・ニューヨーク市）	後援

■大阪事務所

2020/4～ 2022/3	第56期 電話ボランティア養成講座 関西いのちの電話 ▶博愛社5階会議室（大阪市）、大阪府立羽衣青少年センター（高石市）	後援
4/1～5/25	2020年度「地域保健福祉研究助成」「シニアボランティア活動助成」「ビジネスパーソンボランティア活動助成」 大同生命厚生事業団 ▶大同生命厚生事業団	後援
4/16～18	バリアフリー2020【中止】 大阪府社会福祉協議会、テレビ大阪、テレビ大阪エクスプロ ▶インテックス大阪（大阪市）	後援
4/18	「全国遷延性意識障害者・家族の会」関西ブロック講演会【中止】 全国遷延性意識障害者・家族の会 ▶エル大阪（大阪市）	後援
7/19	第27回マインドエアロビクス【中止】 マインドエアロビクス実行委員会 ▶大阪市長居障がい者スポーツセンター	後援

5/31	第 27 回共生・共走りレーマラソン【中止】 共生・共走マラソン実行委員会団体 ▷花博記念公園（大阪市）	後援
6/14	第 38 回日本ライトハウス チャリティコンサート【中止】 日本ライトハウス ▷ザ・シンフォニーホール（大阪市）	後援
8/4～9	第 41 回「子どもたちの讃歌」展【中止】 大阪府・市教育委員会、大阪特別支援教育諸学校造形教育研究会 ▷大阪市立美術館地下展示室	後援
9/13、 10/10～11	自閉症の子どものかみ「のびのびキャンプ」【中止】 関西テレビ青少年育成事業団、アサヒキャンプ、大阪府青少年活動財団（ユースサービス大阪） ▷吉野宮滝野外学校（奈良県吉野町）	後援
3/13	盲導犬育成事業 50 周年記念フェスタ 日本ライトハウス ▷シェラトン都ホテル大阪（大阪市）	後援
3/13、14、 20、21	令和 2 年度「福祉の就職総合フェア SPRING in OSAKA」 大阪府、大阪府社会福祉協議会・大阪福祉人材支援センター ▷オンラインライブセミナー（zoom ミーティング）	後援
3/28	第 4 回「茶の湯文化にふれる市民講座」【延期】 表千家同門会大阪支部 ▷朝日生命ホール（大阪市）	後援

■西部事務所

10/11	第 10 回全九州ろう社会人軟式野球大会 全九州ろう社会人軟式野球連盟 ▷福岡県・大牟田市延命球場ほか	後援
5/10、5/31	第 58 回北九州市障害者スポーツ大会【中止】 北九州市、北九州市身体障害者福祉協会ほか ▷北九州市立本城陸上競技場ほか	後援
6/3～8、 6/17～22	第 55 回西部伝統工芸展【中止】 日本工芸会ほか ▷福岡三越、鶴屋百貨店（熊本市）	協力
11/10～ 12/10	第 68 回手足の不自由な子どもを育てる運動 福岡県肢体不自由児協会ほか ▷福岡市など福岡県内主要都市	後援
3/8～3/14	第 39 回「肢体不自由児・者の美術展」【中止】 公益財団法人福岡県肢体不自由児協会ほか ▷福岡市役所ほか	後援

■名古屋事務所

4 月～ 10 月	第 72 回赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール 愛知県共同募金会ほか ▷NHK 名古屋放送局センタービル	後援
4/12	第 40 回愛知県聴覚障害者体育大会【中止】 愛知県聴覚障害者協会 ▷一宮市総合体育館ほか	後援
4/25～ 5/16	令和 2 年度愛知県障害者スポーツ大会【中止】 愛知県、愛知県社会福祉協議会 ▷名古屋・星ヶ丘ボウルほか	後援
4/22～ 11/19	第 17 回名古屋市障害者スポーツ大会【中止】 名古屋市ほか ▷名古屋市障害者スポーツセンターほか	後援
5/14～16	第 23 回国際福祉健康産業展～ウェルフェア 2020～【中止】 名古屋国際見本市委員会 ▷ポートメッセなごや	後援
6/11～14	第 68 回全国ろうあ者大会 in あいち【中止】 全日本ろうあ連盟 ▷名古屋国際会議場	後援
10/19～30	第 37 回福祉施設絵画展 名古屋市児童養護連絡協議会、名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会 ▷名古屋市・セントラルパーク市民ギャラリーほか	後援
9/10～ 12/10	第 68 回手足の不自由な子どもを育てる運動 愛知県肢体不自由児協会 ▷愛知県内	後援
1 月中旬	高次脳機能障害リハビリテーション講習会 同講習会実行委員会 ▷Web 配信	後援
11/17	第 68 回愛知県社会福祉大会 愛知県社会福祉協議会ほか ▷愛知県体育館	後援
2/2～2/7	第 55 回名古屋市障害者作品展示会 名古屋市身体障害者福祉連合会 ▷名古屋市博物館	後援

収支／寄付報告

2020 年度 事業活動計算書より抜粋
(2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)

単位：円

サービス活動収益	252,136,672	サービス活動費用	472,064,192
事業収益	26,338,126	事業費用	224,249,372
高齢者福祉事業	150,956	高齢者福祉事業	36,990,970
児童福祉事業	1,275,091	児童福祉事業	153,723,704
障害者福祉サービス等事業	74,548	障害者福祉サービス等事業	9,814,588
医療と公衆衛生	52,500	医療と公衆衛生	45,857
朝日福祉ガイド（DVD 他）	2,715,770	福祉啓発推進	574,291
チャリティー事業	22,069,261	朝日福祉ガイド（DVD 他）	1,447,114
		チャリティー事業	21,652,848
経常経費寄付金収益	223,296,618		
その他の収益	2,501,928		
		人件費	187,933,342
		事務費	58,811,734
		減価償却費	1,057,739
		徴収不能額	12,005
サービス活動外収益	483,353	サービス活動外費用	0
受取利息配当金収益	483,353		
		経常増減差額	-219,444,167
合計	252,620,025	合計	252,620,025

詳細は、事業団のホームページをご覧ください。

事業団へのご寄付は総額 2 億 2329 万円

20 年度に全国の皆さまから当事業団に寄せられたご寄付は 8235 件。総額 2 億 2329 万 6618 円にのぼりました。ご寄付いただいた皆さまに厚く御礼申し上げます。

中期計画 2020 ～新しい福祉のカタチをめざして～

はじめに

近年の社会情勢の変化、とくに社会福祉の領域における変化は、かつてないほど急激なものとなっています。格差の広がりによって地域に要援護者が拡大し、それらに対応していくための地域を育み、福祉を支える人を育むことが、時代の要請となっています。

そのような環境の中、社会福祉法人の経営、運営に対しては非常に厳しい批判が社会から向けられています。2017年4月に本格施行された改正社会福祉法はまさに、財務規律やガバナンスの強化、運営の透明性を社会福祉法人に強く求めています。

事業団はこれまでも、寄付者のみなさまや福祉の担い手の方々とともに歩み、社会のニーズに応える事業を展開してきました。ガバナンス強化や運営の透明性の向上への取り組みは、事業団の運営を改めて見直し、これからの福祉を担うユニークかつ先進的な法人として確固とした運営基盤づくりをするにあたっては、よい機会であるともいえます。

このため事業団は、16年度半ばに、事業戦略検討チーム（通称：コアチーム）をつくり、中期計画づくりに着手しました。

職員全員が参加する（参加できない人はメールなどで意見をよせる）「みらい会議」を招集して議論し、おおむね2020年までの理念、人、事業、財務、情報についての基本的な方向性をまとめました。

今回は、私たちの社会的使命（ミッションステートメント）を明確にかかげました。これまで事業推進の3本柱としてすえてきた児童、高齢者、障害者という枠組みを超え、次代の福祉に対応させるべく「地域づくりへの貢献」「福祉を支える人づくり」、それを支える「社会的な支援の輪の拡大」を事業団の新たな三つの軸とし、あらゆる事業をその実現に向けて展開する形に、理念や方針を整理いたしました。

この枠組みにより、各分野を横断するような事業が立ち上げやすくなると考えます。積立金も事業推進の理念にそって組み替え、その用途を明確にしました。

さらに事業団の大切な資産である職員の能力やモチベーションがいつそう高まるよう、スキルアップの場を増やし、働きやすい職場づくりに力を入れます。ソーシャルメディアも積極的に活用します。

ミッションステートメントを軸に構築された今回の計画は、これからの事業団を次代の福祉を担う組織に進化させるものと確信しています。

1. 事業団の社会的使命

① ミッションステートメント

自らの方向性を定め、常に自らを刷新していく指針とすべく事業団の「ミッションステートメント」を職員で共有します。

朝日新聞というブランドを効果的に活用し、地域と人を育み、支援の輪をつなぐな

〈私たちの使命〉

先駆的に取り組んできた歴史を踏まえて
未来を見すえ、地域と人を育み、支援の
輪をつなぎ、お互いに支え合えだれもが
安心して暮らせる社会をつくる

かで、誰もが自分らしく安心して暮らしていける社会の実現を、多くの団体や支援者と連携しながらめざしていきます。ミッションステートメントには、旧来の児童、障害者、高齢者という枠組みでは対応しきれない、介護者（ケアラー）の支援や貧困問題への対応など、新しい福祉問題に積極的に対応していきたいとの思いが込められています。

②職員モットー（事業への向き合い方）

次代の福祉を担う組織となっていけるよう、職員モットーをかかげます。新聞メディアの特性「信頼」「発信力」「情報力」をいかし、福祉ニーズへの対応やその解決に、これまで以上にスピーディーに取り組みます。その際には公正・中立な立場を堅持します。立場の異なる意見や新たな発想に謙虚な姿勢で対応し、独りよがりの考え方に陥ることなく、事業をすすめます。

〈活動モットー〉

- ・時代に必要とされる仕事をめざす
- ・社会的な視点を意識する
- ・新たな課題の発見に努める
- ・スピード感をもって仕事にあたる
- ・効果、効率を追求する
- ・質の高い仕事をめざす
- ・常に仕事を刷新する
- ・持続可能な形をめざす
- ・当事者を尊重する
- ・支援者・寄付者の視点を尊重する

2. 事業展開

①新「三つの軸」

事業は社会的使命の達成に向けた手段として位置づけます。各事業については、職員モットーでかかげたように、より当事者、そして支援者の思いを大切にし、また、絶えず刷新していくことで、すぐれた事業体としての運営を担保していきます。

2017年度からの新規事業は、この三つの軸の考え方をもとに着手することになります。旧来の児童、高齢者、障害者といった福祉領域のサービスもこうした概念を取り込み、発展的に展開します。



②地域にも積極的に貢献

地域で新たな福祉事業を始められるかどうかについて、勉強会を設けて探っていきます。

地域公益事業についても、責任をもって運営にあたっていきます。すでに多彩な事業を展開していますが、より充実させ地域に発信していきます。

3. 拠点と要員

①全国規模で対応

事業団は朝日新聞各本社に事務局をもち、全国規模で事業を展開しています。今後も全国に目配りをする姿勢をもちつつ、東京と、西部、名古屋を含む大阪の「2極」体制を続けていきます。大きな災害などのリスクに備える一方で、人、事業を分散させ、効率的な事業展開ができるよう

つとめます。また、異動などを含めた職員の交流により、広い視野をもち、グローバルな視点で事業をすすめることができるようなキャリアアップへの道筋も整えます。

②適正な人数配置

全国展開をする一方で、それぞれの事情に応じたきめ細かい事業展開を両立させるため、各事業所に必要な人員を配置していきます。

いまの地域別の事業費ベースでの内訳は、東京が約70パーセント、西部事務所と名古屋事務所を含む西日本事業部で約30パーセントとなっています。当面はこうした割合を念頭におき、それに必要な人員配置をしていきます。それぞれの事業所は、本部事務所と連携しつつ、事業所レベルでの財務的に安定した運営をめざしていきます。

③職員のスキルアップ

質の高い福祉事業の展開には、職員の質の向上が不可欠です。福祉のスペシャリストを招いての勉強会といった職員研修を充実させるほか、常に新しい視点で取り組む福祉活動を客観的に評価検討し、イノベートしていきます。

多様な働き方ができるよう、育児や介護時の就業を支えるフレックスタイム制の導入などについて今後検討し、環境整備に取り組めます。

4. 財務戦略・ガバナンス強化

①「次世代型積立金」に組み替え

近年の福祉は、貧困の問題に象徴されるように、問題が複雑化しています。児童、障害者、高齢者という旧来の枠組みだけでは対応しづらい状況が生まれつつあります。

これに対応するために積立金を「児童支援」「地域支援」「人材支援」「東日本震災復興支援」の4つに分けて設定します。さらに、それぞれに該当する事業を仕分けします。今後は各積立金から各事業に、計画的かつ適切にお金を使っていきます。児童、高齢者、障害者という会計的な枠組みに収まらない事業に柔軟に対応していきます。

積立金名称	積立金の趣旨	主な充当先
1 児童福祉振興基金 (含む山岡基金) 7億2千万円	社会的支援を必要とするすべての子どもたちに夢と希望を与えるための基金	・進学応援金 ・子どもの貧困助成
2 地域福祉振興基金 4億4千万円	誰もが、年を重ねても安心して暮らすことのできる地域づくりに寄与する基金	・認知症プロジェクト ・認知症カフェ開設助成
3 福祉人材育成 啓発交流基金 2億7千5百万円	時代の福祉を担う人材を育み、その交流と福祉の啓発に寄与する基金	・手話スピーチコンテスト ・朝日夏季保育大学 ・ゆうゆうビジット
4 東日本大震災 地域支援基金 2億7千5百万円	東日本大震災で被災した地域の復興に寄与する基金	・朝日のあたる家 ・被災地訪問プログラム

②新しい収入源の確保に注力

現在の年間事業規模は4億円程度で推移しています。金額的には妥当なスケールであると思われます。しかしながら、寄付金収入やチャリティー事業の収入が今後落ち込むおそれがあり、安定的な資金的な裏づけのない事業団にとっては、収益源をまかなう収益事業をあらたに開拓する必要性が出てきます。

ネット空間を使った新たな寄付受け入れ手法の導入や、新しい視点でのチャリティー事業づくりなどに、全力をあげて取り組んでいきます。

③財務情報の透明化と管理の徹底

社会福祉法人に対するガバナンス徹底などの要請が強まっています。事業の収支については、各事業のフローバランスを注視、全体的収入に応じた支出規模となるように、これまで以上に厳密な管理をしていきます。事業の妥当性、会計の透明性を確保するため、一定の外部組織等による監査も導入します。

④柔軟なマネジメント

たとえ、実施することを年度当初に決めた事業であっても、ガバナンスの徹底、リスク低減の努力などがなされていなければ、直前であっても実施を見送ります。

事業を進める際には上司と部下が緊密に連絡、意見交換を交わしつつ、おおいに前向きな議論をしながら、最新のニーズにそった、意義のある事業を手がけていきます。

また朝日のあたる家のように、他団体を通じて支援している施設の老朽化に対応するメンテナンス費用などについても適切な金額の積み立てを考えておく必要があります。つねに数年先の将来像を描きながら、運営してまいります。

5. 広報展開

SNS（ソーシャルネットワーク）を積極的に活用

SNSの社会的な影響力は高まる一方です。事業団は法人独自のホームページをもち、その更新につとめ、催しなどの広報をしています。SNSの影響力が大きくなるなか、それらへの適応が急務となりつつあります。本格的な導入に向けてしっかりとした態勢をつくり、催しのいくつかでInstagram、ツイッター、フェイスブックなどを活用した実験的な取り組みをはじめます。

また、ウェブマーケティング（グーグルアドワーズを使った広告など）を一部の事業で活用し始めていますが、これらの活用も積極的に模索していきます。

おわりに

今、社会福祉法人の制度改革がすすめられています。この中期計画も、この法改正に対応する内容になっています。この度の改革の趣旨は、社会福祉法人の存在意義を問うものであり、私たちはこの要請にしっかりと応えていくべきと考えます。この計画は、新しく求められる社会福祉法人としての社会的役割、そして事業団としてのこれからの社会的使命を方向づける、重要な役割を果たすものと考えています。

今回、おおむね2020年までの方向性ということでまとめましたが、最新の福祉ニーズに応えるために修正が必要であれば、期中であっても速やかに変更していきます。常に時代に対応した事業を展開していく姿勢を貫きます。職員各自の、またご支援ご協力いただいている方々の思いが、本計画をもとに統合され、新しい福祉のカタチをつくっていけるよう、努力してまいります。

朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ

朝日新聞厚生文化事業団の設立のきっかけは、1923（大正12）年9月1日の関東大震災の被災者救援活動です。朝日新聞社は全国から寄せられた義援金や食糧、生活用品を被災者に配り、震災の翌年末には「歳末同情週間」（現在の「歳末助け合い」）を主催し、紙面キャンペーンや街頭募金を始め、美術家や作家などの協力を得た「色紙・短冊即売会」（現在の「朝日チャリティー美術展」）を催しました。これらの寄金を食糧や衣料品にかえて生活に困る人々に贈りました。

その後、世界的な経済恐慌で生活困窮者が増え、社会問題が続発したため、28年1月に「社団法人朝日新聞社会事業団」を大阪朝日新聞社に創設しました。「歳末同情週間」の寄金で生活困窮者に慰問袋や無料診察券、常備白米券を配り、困窮者への「出世資金」の貸し出しや農繁期託児所の開設、水上生活者のための無料診療船巡航などを実施しました。学校に弁当を持参できない子どもたちの「欠食児童給食運動」キャンペーンは、現在の学校給食のきっかけとなりました。大阪に公衆衛生訪問婦協회를設立し、保健・育児など多岐にわたる活動は日本の保健師制度の基礎を築きました。

第二次大戦後は、戦災者や引き揚げ者への家庭常備薬や医療品の配布、傷病兵慰問などの援護事業から始まりました。廃墟の中での明るい話題は、49年9月にインドのネール首相から贈られた象「インディラ」の「移動動物園」でした。半年間で東日本18都市を回り、子どもたちの笑顔を取り戻しました。

52年に社会福祉事業法が制定され、朝日新聞社の東京・大阪・西部各本社にそれぞれ独立の社会福祉法人を設け、「朝日新聞厚生文化事業団」と改称しました。63年には大阪事業団の名古屋支部が独立し、全国展開事業とともに地域福祉事業の推進に着手しました。

戦後の復興とともに本格的な社会福祉事業への取り組みが始まり、児童福祉法施行5周年を記念して大阪に「アサヒ生駒山キャンプセンター」を開設、児童養護施設の中学生修学旅行や福祉施設で暮らす高齢者の温泉旅行も始まりました。54年8月に第1回の「朝日夏季保育大学」が開かれ、56年2月から始まった「この子たちの親を探そう」運動は、戦争で生き別れた親子146組の対面を実現しました。

ハンセン病の正しい理解と患者支援のために「大阪ハンセン病協力会」を設立し、「アサヒベビー相談室」を大阪・名古屋のデパートで開設したほか、大学医学部による全国の無医地区診療など、医療と公衆衛生事業にも力を注ぎました。

59年9月の伊勢湾台風、64年6月の新潟地震では被災地に朝日診療車が出動して被災者救護にあたり、全国からの救援物資を配布しました。

高度経済成長と共に事業を拡大しました。三重県多徳島の「アサヒ志摩キャンプセンター」、愛知県梶島の「アサヒキャンプセンター」、千葉県保田海岸の「朝日臨海福祉センター」、大分県九重町の「朝日高原福祉センター」を開設し、福祉施設の子どもや障害のある子どもが参加するキャンプ事業が始まりました。また、激増する交通遺児家庭への支援活動を始め、視覚障害の学生の

ための奨学金制度も創設しました。

障害のある人や難病患者への支援も本格化し、電動タイプライター・電動車いすの贈呈や普及キャンペーンを展開。福祉のまちづくりを進める「車いす市民交流集会」や、福祉先進国を訪ねる「車いすヨーロッパの旅」も始まりました。

「ヨーロッパの旅」は障害のある人の海外旅行の先駆けとして注目され、これらの集会や旅の参加者の多くが、障害のある人の自立生活運動の中心となりました。また、「朝日ボランティア奨励金」「朝日福祉設備助成金」（86年に「朝日福祉助成金」に統合）を相次いで創設、各地でボランティア講座を開くなど、草の根福祉活動の支援を進め、認知症など介護の必要な高齢者の問題に対応する「アサヒ老人家族相談室」も開設しました。

81年の国際障害者年には「障害者の自立を考えるシンポジウム」を全国で開催し、ノーマライゼーションの理念を基に、コミュニケーション・プリンターや手書き電話、福祉電話装置「ふれあい」などの贈呈運動を展開しました。精神障害者の医療や福祉の先進国である欧米5カ国に視察団を派遣し、日中平和友好条約締結10周年を記念した「日本・中国車いす市民友好相互交流」も実施しました。

また、自閉症の支援システム「TEACCH（ティーチ）プログラム」に着目、米国ノースカロライナ大学から講師を招いて研修会を開き、ガイドブックやビデオを制作・頒布するなど、本格的な普及活動を開始。2002年からはその実践者千人余りが集う「自閉症カンファレンス NIPPON」を開催しました。同時に学習障害児（LD）の理解を進める公開相談会や、深刻な社会問題となった青少年の「ひきこもり」問題を考えるシンポジウムも各地で開きました。

手話の普及とボランティア活動・福祉教育の推進をはかる「全国高校生（大学生）の手話のスピーチコンテスト」は84年にスタートしました。91年からの「アジア障害者の10年」にあたり、全国の障害者施設・団体と協力して、タイ・ベトナム・カンボジア・フィリピンなどに車いすを贈る運動を展開、障害のある現地の人が車いすを制作・修理する工場を開設しました。

一方、83年のアフリカ飢餓救援キャンペーンをはじめ、国内外で起こった災害に対応して、救援募金を呼びかけてきました。91年には「チェルノブイリに光を」キャンペーンを開始、広島・長崎の赤十字病院で被災地の子どもを診療し、現地の医師が被曝（ひばく）治療の研修を受けました。

95年1月の阪神淡路大震災では、救援拠点として「朝日ボランティア基地」を開設し、高齢者・障害のある人への緊急援助や仮設住宅世帯、アジアからの留学生、被災児への支援など多岐にわたって活動。2004年の新潟県中越地震では、被災者の心のケアをはかる事業を展開しました。この実績は11年3月の東日本大震災でも生かされ、両親を失った子どもに一時金を贈る「こども応援金」や、岩手県陸前高田市の地域交流施設「朝日のあたる家」の開設など、独自の救援事業に取り組んでいます。

東京・大阪・西部・名古屋で独立して活動してきた各事業団は01年4月1日に合併して、「社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団」となり、18年には創立90周年を迎えました。新聞社の福祉事業として、常に社会の変化やニーズを先取りし、社会意識を高めるための取り組みを続けています。

名 簿

理事・監事・評議員名簿（敬称略、順不同）

（2021 年 3 月 31 日現在、理事 6 人 監事 2 人 評議員 7 人）

理事長	飯田 真也	朝日新聞社相談役
業務執行理事	鈴木 健	朝日新聞厚生文化事業団理事
理 事	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会理事長 元環境事務次官
同	早瀬 昇	社会福祉法人大阪ボランティア協会理事長
同	越村 佳代子	元社会福祉法人こどもの国協会常勤理事・副園長
同	服部 万里子	服部メディカル研究所所長
監 事	亀岡 保夫	公認会計士 大光監査法人理事長
同	狩野 信夫	社会福祉法人けやき福祉会常務理事（業務執行理事）
評議員	石川 到覚	大正大学名誉教授
同	杉村 全陽	社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団事務局長
同	大塚 晃	一般社団法人日本発達障害ネットワーク副理事長
同	大谷 泰夫	社会福祉法人日本保育協会理事長
同	小林 秀樹	社会福祉法人東京都社会福祉協議会事務局長
同	水野 雅生	ミズノプリテック株式会社社会長
同	石神 和美	朝日新聞社 CSR 担当補佐兼 CSR 推進部長

職員名簿（2021 年 3 月 31 日現在）

【本部】（東京）	【大阪事務所】	【西部事務所】
事務局長 是永一好	西日本事業部長	事務所長 上原 啓
事業第一部長 野崎貴士	兼大阪事務所長 山本雅彦	専門委員（西部在勤）
事業第二部長 宮前 賢	北村美樹	福田年之
管理担当部長 山本 剛	小倉玲子	
広報担当部長 河田有子	藤本祐子	【名古屋事務所】
落合すが子	森田英枝	事務所長 岡本真幸
勝見文子		
古屋厚子		
富岡信幸		
中村宣人		
松岡百合		

2020
朝日の社会福祉
令和2年度事業報告



朝日新聞厚生文化事業団